

バストス週報

第1379号
昭和四十八年
九月二十四日
月曜日発行
Director
Koiti Mori
Redator
Shion Oda
Rua, Pres.
Vargas 188
C. Post. 112
Fone 40
BASTOS
C. P.
Anual
Cr. #
30.00
Adiant.

水紋 39

チリ共産政權 崩壊の教訓

新聞によると、チリの共産政權が、九月十一日軍部のクーデターにより崩壊した。その理由として、一口に云って、来るべきものが来たという感じである。アレレンデという人が選挙によって大統領となり、政權を握った時、非常にフラックな内閣だという印象が強かった。キリスト民主黨といいた前政權が野党に廻わり、政府党と対立し、わずかに軍部の支持のもとに開店をしたところ、すぐ米國資本の追い出しにかかり、銅山の直営をやったり、とにかく一人前の強力國家づらをして、外國資本の締め出しをすることが、自分の首を自分の手で締めるようなものである。

そういふ下手打ことをするから、忽ち自國經濟の辻妻が合わなくなり、ストは八方から起り、国内は蜂の巣をつついたようになる。商人、組合、自由職業までが運輸關係者に合流し、各層の攻撃を受けるに到った。

政府開業以來、アリエンテ商會ぐらいたたごたごたの絶えぬ、そして評判のわるい政店はなかつたであろう。

第一、選挙で以って共産黨が勝つことはあり得ても、次の選挙で負けることもあり得るので、共産國たるものは、強力な軍隊を持った政黨たるべきで、一度政權を克ちとったら、反対する政黨を殲滅してしまわなければならない。勿論共産的言論の自由はあるべきだが、自由世界の声や政評は、共産國內では御法度で、根だやしにしなければならぬ。

三年前、チェッコスロバキヤで起った自由思想萌芽でさえ、ソ連の戦車で一朝に蹂躪されたではないか。ソ連といふ、中共といふ、キム・イ・イルといふ、共産國では、不平は一切言えないのである。不平といふのは國家に反逆であるし、許すことのない犯罪とされてゐる。

現在紛争をつづけてゐるカンボジヤでも、自由と共産が食うか食われるかの大争いを演じてゐるのである。チリだけ特別であり得るわけがない。アリエンテが國民の選挙で克ちとった共

WAKAMOTO

安産 母子 元氣

SAUDE PARA A GESTANTE

ENZIMAS + COMPLEXO B + MINERAIS

百倍強力



産政權だといばつてみても、所詮破産の櫻閣だ。適當に健康に育つた國民は自由主義の求のろのは当然で、暗い歴史をもつたり、貧しかつたりすると、共産主義者のずる悪となり、先進共産國の支援により兵器を手に入れ、勿ちにして前政權を倒し例して赤化してしまふ。中共の場合では、毛沢東一派が長安中東に進出して蔣介石軍を大陸から追い出してしまつた。毛沢東は選挙で克ち取つた地位ではなく、武力で天下を平定したので、中央の息が荒く、日共の連中が機嫌を伺に行つても、君のような武器ももたぬ共産黨はだめだと、こなししてしまふ。毛にしてみれば、それなことで天下がとれるものかといいたくない。毛は、ソ連の指導裡には、修正主義が漂つてゐると指摘し、鼻の先までせせう笑う。だから中共の指導部の中に修正主義の嗅みがあると、追放して、嚴重不純をいましてゐる。一時インドネシアが中共に迫つたスカルノ時代、彼は米と中ソを手玉にとつ

たような事をいっただが、結局は自滅してしまつた。
 そうした先例からみても判るようには、チリの政権を一時アリエンダが握つたものの、共産党という一政党が政権にありついたのである。チリは、チリがチリであることへまばかりやり、遂に軍部にも愛憎をつかされて自滅してしまつた。チリなどは共産主義国家としては、まだ足並みが揃つていないし、丘政下に塗炭の苦しみをみていたわけでもなく、遊び気分の共産主義では問題にならない。

主権侵害

日本の被占領時代、日鉄の下山總裁が何者かに拉致され、数日後死体となつて貨車から鉄路に放り棄てられてあつた事件、あれは逆宮入りとなつてしまつたが、作家、松本清張氏の推理によると、米軍駐屯の某倉庫で殺され、貨車に積んで遠棄されたものだといふ。
 証拠としては、下山氏が穿いていた靴の裏に付着した金属性の粉が米軍倉庫内の作業場においてあるものと同一のものであるといふが、たとえそうであつても、当時としては、米軍正規軍の中からも、犯人を捕出することは困難であつた。たうし、まして、被占領当時だから、たとえ日本政府の高官でも殺して粉砕する位のことには、出来ぬこともあるまい。
 その後米兵が駐屯地で日本人を殺した事件は数々あつたが、捕和條約後の行は、犯人たちは、日本官憲に引き渡され、日本の裁判で判決している。これが日韓條法である筈である。
 近い過去では、十三年前ユダヤ人のある団体(秘密警察?) 数人が飛行機でアルペンチン、ブエノスアイルズにのりこみ、この国に逃亡していったドイツ人アビマンを捕らえ、飛行機に積んでイスラエルにつれて帰り、ナチ戦犯として裁判にかけ、遂に死刑に処した。ユダヤ人としては、非合法手段などは、かまつていられない。無理からぬ処であるが、大國アルペンチンとしては、国家の面目にかけて断つては居られぬと、大げんかになり、数年断絶のままだった。

六年前韓国留学生十七名とかが西ドイツ、首都ボン附近で韓国人はつかまり、蒸発してしまつたことがあつた。西独官憲が調べると、彼は東独から共産思想を移入される好ましからぬ人物であるから、捕えて朝鮮へ連れ戻したといふことがわかり、西独は激怒し、借款問題取消し

ORGANIZAÇÃO RIO BRANCO S/C ADVOCACIA CONTABILIDADE E DESPACHOS

法律案内
 仕用人の
 雇庸契約を
 確実にしておくこと
 いざこざが起きないように
 するには契約書が大切です
 労働法 民事法 刑事法
 会計事務 一切
 農家も帳簿を確実に!!
 一切は当事務所へ御相談下さい
 Dr. 石川雅宏
 Dr. 小林平行
 プリンテ、アルガス街一八九番
 郵函 一〇三番
 電話 一〇五番
 一八〇番

、国交断絶の拳に出た。以上二件とも主権侵害をした側が平あやまりにあやまつたので、後年仲なおりをしたといふことだ。
 ところが、その韓国が、こんどは、日本に對し主権侵害をやつた。
 去る八月八日、東京のホテルに滞在中の新民党元南朝鮮大統領候補氏を、人の朝鮮人が捕えて拉致した上、どこに引廻したか、御丁寧にも京城へ連れて帰り、金郎附近でソルダしたといふ事件である。
 日新聞に出るから、皆さんも御承知であろうと思うが、日本政府としては、面目ない。おまけに、日本警視庁の調べによると、拉致犯人の中に、駐日南朝鮮大使官員が居ることをつきとめ、彼が金氏の室に残していつた指紋を証憑に出頭してほしいと大使館に申し入れた。外交官規約を楯にとつて出頭に応じないことから、こんどは国全の問題となり、野党が主権侵害を何故か合わぬかと、大平外相をさうさう締め上げた。大平外相は、鬼でもかなわぬ様な堂々たる容顔だが、日韓友交の建前をとつて、強いかけ合いが出来ないでいるらしい。現地投資というかんじがらうの關係あるもので、日本何するものぞと、詰められ

ていふことと必定である。くすぐすいえは
没収だぞと思つていろだらうか。由來
半島人は日本に髓底の怨恨をもつていろ。
日本の軽卒さが招いた罪だが、過去の
日本の撒いた罪科は今みのりつつあるよ
うである。

主権を侵害されたなどといつて、いき
まかないで、こん後そんな下手なことを
するなといつて、手を引いておく方が、
ほんとは利巧ではないか。金氏が殺され
ていふならとにかく、自宅にかえりつく
ことが出来、日本側が損をしたわけでも
なく、法だとか、けじめをつけなければ
すまぬものなら、投資ぐらいいきれいにく
れてやっ上、大國とはこんなもんだと
いばつてみせる方がよいだらう。
但し、だだっ兎のような同じ手はくり
返すなよ……と、わしが外務大人なら
、そうするがねえ

糸音

恍惚の人

22

女性拡張運動は戦後精彩を失つてい
、それというのでも販戦と同時に男女同権
平等を謳う法律がGHQから投げ与えら
れたからだと言われているが、夫の財産
は妻も協力して築いたものだといふ考え
方は依然として行われていない。

しかし、まあ、そのことについては今
はいいい、仮に昭子の仇を認めたとし
ても信利はこういうだらう。家も出来た。
敏も来年は大学だ。信利もしかるべき地
位と収入を持っている。もう、いいじや
ないか。

「こういう結論が、昭子には我慢がな
うないのだった。それならば昭子はただ
金を得ることだけの目的として働いて来
たのか。工員が単純な作業を繰り返す
ように、邦文タイプライターのキイを叩い
ていたというのか。女は無能だから、お
茶汲みとタイプライターぐらいいが分相応
で、職からの社会参加などはまるでな
かたどでもきめつけるのか。そんな考え
方には昭子は反発があるし、小さな法律
事務所の中ながら昭子の果してきた役割
はそんな小さなものだとは考えていな
い。現に、姑の突然の死で、三日休んだ
だけで事務は停滞していたし、十余年前
の産休のときだって、昭子の職場復帰を
弁護士たちは首を長くして待ちかまえて
いたのである。今度だって昭子が急にや
めると言い出せば、事務所では困るにき
ままっている。邦文タイピストはすぐ探せ
たとしても、来客の接待や事務の片付け
方には昭子ほどに熟練するに一年や二年
は間に合うものではない。そういうこ

MACVETTI LTDA AGENTE EXCLUSIVO OLIVETTI

MAQUINAS DE ESCRIVER SOMAR E CALCULAR
MANUAIS ELETRICAS E ELETRONICAS
"OLIVETTI" ASSISTENCIA TECNICO ESPECIALIZADA
PERMANENTE
BASTOS - Rua 10 de Novembro 551 Fone 388 C.P. 9
TUPÃ - Rua Caetes 679 Fone 2526



計算機 電気計算機 タイプライタ フィック各種
電気タイプライタ フォルミカ事務机 アルキボ
コフレ (金庫) 等々
ATENDE BASTOS E REGIÃO
林 広 人

とが信利に少しも分つていないようなの
が昭子には残念であつた。
昭子が黙つていたやうである。
「人間五十年という時代には起らなかつ
た悲劇かもしれない。これは、食生活
の向上で平均寿命が延びたときでたが
、実態がこれだといふことに気がついて
いるのかな。世の中は」
「多量にみたいですよ、随分、うちの女の
子もガス栓のこと話してたでしよう。先
生も似たような経験があるらしかつたわ
。それに、お通夜の晩にお坊さんも言っ
たでしよう。なんだか急にこの家にも
年寄りがいるって気がするわ」
「医者は親爺のこと、何と言つてたんだ」
「一週間で結果が分ります。火曜日に
行つてみます。でも」
「うん」
「京子さんと言つてお医者で
「無責任な奴だな、あいつも」
ともかく夜は離れから火鉢を持って来て
、炭火を灰に埋め、部屋の保温に使うこ
とにしよう。昭子は心にきめた。問題
は明日からのことだ。葬式の後の換
は廻りは香奠返しとも言つて、遠方から
来てくれた人には百貨店から配達しても

うが、近所には昭子が自分で持って出かけることにしてある。綺麗な箱入りの煎茶にした。そついう相談には実家の嫂の光子が幸細かに応じていてくれていた。木原夫人や門谷家には世話になった御礼の他に今後のことも頼んでおかなければならない。さしあたって明日からの茂造について、出来れば誰か様子を見てもらえろ人が見つければいいのだが。

老人クラブの話は門谷さんのお婆ちゃんかしてきてくれていたのが忘れられなかつたので、もつと具体的なことを訊いてみた。と思ひ、昼食の後で「志」の紙を貼った煎茶の箱を持って出かけていった。

「まあまあ御門多いことでしょうに御丁寧なことと恐れ入ります。」

昭子とほぼ同年と思われれる門谷家の人は、昭子が用件を切り出すと大喜びして姑を呼んできた。

「お婆ちゃん、立花さんのお爺ちゃんもクラブへ行く約束したんでしよう？」

「クラブですか。ええ、ええ、月曜は民謡のクラブなんです。お昼からですよ。お誘いに行きますよ。木曜日も民謡ですよ。お習字もありますしね。お茶の会もあります。お習字もありませんしね。お茶の会もありません。松の木の方へ行きますと、お風呂があるんです。嫁がそんなところて風邪をひいたら詰らないと言います。ですから私は梅里の方へ行っています。会長さんが、こないだ病気をしたけど、もうよくなりました。お婆ちゃん、いい、いい。」

「どうやらお婆ちゃん、初七日の夜の猶態が嘘みたいだ。茂造を連れて行く約束を忘れていたらしいのだが、門谷夫人の方が覚えていたらしい。一緒に連れて行ってもらうえぞうだった。しかし、昭子の気持では、それが何処にあり、どういう形で運営されているのか、きちんと知っておきたい。場所を教えてもらおうと早速出かけて行った。

「こんなところ、いつからこういうものがあつたのかと、目を疑いたくなるような建物だ。歩いて十分もかからない児童遊園地の隣りに建っていた。もとは何であつたのか表向きは洋館である。玄關の戸は三十センチほど開け放しになっていたので、昭子はそこから中を覗きこんだ。下駄箱に両手をかけて、ゆっくり履物を脱いでいる年寄りを見付けたので早速訊いてみた。

「あの、こちらが梅里の老人クラブですか。」

老人は緩慢な動作で昭子を振り返った。顎がひくひくと左右に揺れている。一目で「風の病後と見えた。」

「何のクラブのことですか。」

「あの、こちらが梅里の老人クラブだ。」

御 礼

故松井元三様の香奠返しとして御寄附にあずかりました。早く御礼申上げます。

バストス広島人会

松井節 様

金一封 御 礼

故松井元三様香奠返しとして石御寄附の段ありがたく御礼申上げます。

バストス仏教婦人会

松井節 様

FABRICAde GRANITO
 Av. Rio Branco, % C. Postal 123 Fone 515
 ADAMANTINA C. P.

日本式及ブラジル式
 墓 碑 記念 碑
 胸 像 石 燈 籠
 石 白 も ち 白
 石材美術彫刻類一切製作
 古い碑も修理いたします

アグマンチーナリオブランコ大通り
大西石碑工場
 郵函 二十三番
 電話 五一五番

「何て来たんですけれど。」

「はい、ここは敬老会館の梅里分館です。がね、今日は、幹事の集りがあるんです。よ、今日は、幹事の集りがあるんです。クラブ活動の集りはないんです。見かけはよります。茂造が、手足が不自由でも、せめてこちらで言うことにこれだけ受け答えできたらと、昭子は羨ましく思った。この玄關での立話で得た知識は思いがけなく大きいものだった。敬老会館というのには、区役所の福祉課の指導で、もう十年以上も前から発足して、各地区にあり、杉並区全体で六十もあるというところ。梅里分館でも会員数百五十名、松の木、堀の内、梅里に居住する六十歳以上の老人なら誰でも無料で会員になれる。この会館を利用することができろが、クラブ活動に参加すれば、一年に五百円ぐらいの会費を支払わなければならぬ。クラブ活動のない日でも、ぶらりと入って来て、テレビを見たり、同じように賑やかな相手を見つけて喋っていても自由であるとのこと。

「弁当持ちで出かけて来る人もあります。区役所の福祉課から事務員が一人派遣されてきて、朝八時から午後五時まで入口の事務所に詰めている。」

「つづく」 著者 有吉佐和子

俳誌「木蔭」の三百号記念に聖市の

文協の舞台で上演された演劇

或る移民の生涯

序文

栗原謙一

アソニニヤンゲラ日系クラブ創立七周年記念の演芸会に於ける、劇「或る移民の生涯」は、会館を埋めた観衆の一人一人が素朴な思い出と深い感動に包まれたのである。
それは移民としての、或は二世、三世としての、それそれの立場の太々が辿つて来た、忍苦と郷愁を、一世から二世に移る人生變遷の相克を、如実に舞台へ表現した事が、人々の心の証文に深く訴えるものがあり、感銘と陶醉と泪になつたものと思う。

佐藤正雄氏から「或る移民の生涯」を作品として刊行したいが一文を書いて貰えないだろうか、と頼まれた。勿論私はそんな才能があるとは思つた事もないので、一応お断りしたのであるが、クラブの一員として友人として誠意には誠意を以つて応えなければならぬと思ひ、敢て感想を書いて見ることにした。
十数年に亘る劇の運びを解説朗読に依り、舞進行を助ける手法は感じが良い。

一幕から四幕に列ろまでの音楽の運び選り方も良かった。

何よりも良かった事は此の作品には独創があること、今迄の一切の演劇のイメージを抜きにして真実を以て訴えた処に作品としての端緒しい新しさがある。移民の誰もが一度味わつたことのある生活の虚しさ、家族の労苦、一世の自分に得られなかつた夢を、二世に賭けそれのみに生きて来た一世の親の気持、準二世としての長男の協力、二世としての次男の反叛、其の人生模様を哀愍をあます処なく演出した手際は見事というほかはない。

近頃コロニア文学愛好者の間に演劇運動が始まつていて、其の運動の主な一人に「もう何か出来ましたか」と尋ねたことがあるが、せわしくて未だ其の緒についていないという答えであった。さすれば佐藤正雄氏の戯曲「或る移民の生涯」は、コロニア演劇運動の嚆矢として高く評価されるべきものであり、アソニヤンゲラ日系クラブの演劇はコロニア演劇運動に先鞭をつけたものと云うべしものである。

さものである。
シナリオに一貫して流れるビューマニズムは救いと希望をもたせるものであり、誰にも共感を呼ぶ内容はコロニア演劇史の第一頁を飾るにふさわしい作品であると思ふのである。

此の脚本が広く七十万同胞に読まれ、劇され、コロニアに生れた新らしい演劇として一人でも多くの人に観て貰えたらと、心から冀うものである。
一九七三年一月九日

この脚本を故平野誠喜君に捧ぐ

戯曲 或る移民の生涯(四幕四場)

佐藤正雄

第一幕、開幕前の解説(朗読)

EA DESTINO DESFOLHOU
(伴奏は「エ、オ、テスチーノ、テスフオリヨ」を低く)

この劇の主人公、山野健次は熊本県のある山奥の農家の次男として成長した。やがて妻を迎えて二人の子供がまて出来た。しかし行きつづまつた日本農村の生活に見切をつけた健次は、南米に行つて一旗あげようとして、親や親戚の反対を押して、故郷をあとにブラジルに渡つた。一家は海奥の世話でサンパウロ市より

ポストデガソリーナ

超速自動車洗滌

わずか三分間であなたの自動車がピカピカになります。

トロツカ オーレオ
エン グラツシマ



短時間に洗滌と注油
給油の一切の御用が
達せられます

LAVA JATO

SLSQUICENTENARIO Fone 371

PETOROBRAZ

ラヴァジマツト

ドッキテカシマス街

演舞場のとなり

セキスセンテナリオ

ラヴァジマツト

電話 三七一

1973年八月分 バストスの気温と降雨量 ブラック製糸会社 測候部

項目	気温 °C	湿度 %	最高 気温	最低 気温	降水量	風向	天候	雲量
1	27.0	36	29.0	5.5		N	☉	
2	19.0	89	31.0	15.0		S	☉	8
3	20.0	70	22.5	14.0		S	☉	7
4	19.0	60	25.0	13.0		S	☉	8
5	16.0	100	23.0	14.0	19.5	E	☉	10
6	18.0	94	21.0	11.5	2.0		☉	2
7	22.0	79	24.0	6.5		E	☉	
8	24.0	50	26.0	7.0		N	☉	
9	26.0	40	29.0	6.0		N	☉	
10	25.0	45	31.0	10.0		N	☉	5
11	25.0	51	31.0	15.0		S	☉	8
12	24.0	57	28.0	5.0		N	☉	5
13	24.0	64	29.0	3.0		S	☉	7
14	21.0	70	25.5	5.0	0.3	S	☉	7
15	24.0	64	26.5	4.0		S	☉	5
16	24.0	50	28.0	2.5		E	☉	
17	22.0	63	27.5	1.0		E	☉	
18	24.0	64	29.5	11.0		E	☉	
19	28.0	47	31.5	11.5		S	☉	
20	22.0	79	34.0	13.0		E	☉	
21	26.0	58	31.0	13.0		E	☉	5
22	22.0	71	31.0	14.5		E	☉	7
23	24.0	57	25.5	13.0		E	☉	
24	26.0	52	30.0	15.0		E	☉	5
25	27.0	47	32.0	20.0		N	☉	7
26	22.0	90	29.0	18.0	3.0	E	☉	0
27	19.5	94	24.5	15.0	4.5	S	☉	8
28	13.0	100	20.0	11.0	13.2	S	☉	9
29	17.0	78	18.0	5.0		E	☉	2
30	20.0	70	23.0	9.0		E	☉	4
31	21.0	70	25.0	13.0		N	☉	5
合計	691.5	561.5	2059	841.0	38.0			69.5
平均	22.3	18.1	66	27.1	12.2			

六百キ口程はなれたサンショアキンといふ小な町より更に十二キ口耕地に配耕になり、ここに彼等の第二の人生の第一歩をしろしたのであった。

しかし乍ら、いよいよ始まったコロノ生活は日本で想像していた様な甘いものではなかった。

妻は風土病のマレイタにやられて大熱を出し、子供は砂ビツシヨのために足をはらして、びっこを引いている。その上わずかばかりの日本からのたくわえも使い果し、明日のアコース、フェイジョンにも困ることさえあった。

こうした時には流石の健次も、ブラジルの来た事を後悔して男泣きに泣くこともしばしばであった。しかし、しつかりと歯を喰いしばり、先輩の励ましもあり、幾多の苦難をのりこえ、ようやく借地ではあるが、独立農までこぎつけた山野一家ではあった。

夫婦はお互に励まし合って、今日も朝早くからアルゴドンのプランタに精まを出している。

第一幕 第一場

時代 日本移民の初期
場所 サンパウロ州 奥地の開拓

登場人物 夫 山野健次(三十五才) 妻 春子(二十五才位) 長男 一郎(五才) 長女 愛子(三才) 次男 マリオ(乳児) 隣耕地の男高橋 舞台正面左側に粗末な藁小屋(山野夫婦の住居)。背景はサンパウロ奥地の開拓地の荒涼とした風景。新山を伐り、焼いた跡。伐り残った真黒に焼けた大木、遠く処々に椰子がある。

伴奏、未開地の夕暮れに鳴く小鳥の鳴き声。照明、夕暮れの感じ。明るいくれども素淡。

夫、山野、労働着姿で黙々としてエンス・ドゥンでコーバを廻る作業。その妻、春子はブラジルの農村婦人の姿、青縞のワンピースに白木綿の細いスボン、男用の皮ガパンに赤いレシンをかぶって矢張り黙々として、一心にアルゴドンの種を蒔く動作、乳児を背負っている。一郎がっついて歩く。愛子がヨチヨチその後につく。

舞台の左側の花道より隣耕地の男高橋、長袖の白シャツ、カーキ色のスボン、サバトンを、レシンを首に巻き、大ツバの帽子、白いフアリソニマのサツコにマント等を入れて肩にかついだ姿で現れ、小屋の横手まで来て立止まり、汗を拭いてから大声で……

死亡通知並に会葬御礼

母、崎田金代(59才)こと三十日以前発病しツパ
 ンのサソタカーザに入院加療中の悪病勢快癒
 に向いませず、本人の希望に従い、バストス
 病院にて養生を続けましたが、昏睡状態のま
 ま、九月十七日午前十時四十分遂に永眠いた
 しました。
 依って翌十八日午前九時自宅出棺バストス墓
 地に埋葬いたしました。
 此儀生前御交誼を賜わりました皆様へ謹告申
 上げ、尚病中御手厚き御見舞を賜わりました
 方々へ裡心より深謝申上げます。
 尚葬儀にあたりましては御多忙中わざわざ御
 会葬下され、その上御香料供華なと御贈与い
 だき誠にありがとうございます。
 一々御廻礼致すべきですが取込中御ゆるしを願
 いまして略儀乍ら紙上で御礼御挨拶申上げま
 す。

一九七三年九月十九日

バストス中央第五区

長男 崎田 義 磨

妻 " " 安 子

次男 " " 信 之

長女 原 照 子

夫 " " マ リ 才

次女 崎田 節 子

親戚代表 小 茂 田 光 明

" 崎 田 春 一

(順序不同)

バストス市役所様

中央五区講一同様

モブライール学校様

バストス連合仏教婦人会 様
 バストス連合仏教会 様
 畑中学校生徒一同 様
 ブラ拓製糸株式会社 様
 バストス婦人会 様
 フラタク製糸事務員一同 様
 バストス仏教婦人会 様
 バストス南米本願寺 様
 バストス・ロタリクラブ 様
 バストス合唱団一同 様
 ハストス聖母婦人会 様
 バストス市役所従業員一同 様
 バストス中央第五区 様
 バストスプービスコ 商工株式会社 様
 コチア産業組合バストス倉庫 様
 CENTRO CIVICO DO JOSE CANDIDO-
 DE MANCILHA 様
 2º ANO DA ESCOLA TECNICA DE — 様
 COMÉRIO 様
 CENTRO EDUCACIONAL BASTENCE 様
 4º SERIE B DO GINASIO ESTADUAL 様
 生長の家相白青年会 様
 バストスPL教団 様
 バストス高野山同信会 様
 CONTADORANDOS DE 1970 様
 1º ANO COLEGIAL 様
 1º ANO COLEGIAL DIURNO 様
 バストス内外御会葬者各位 様

